

「子供の頃の夢」

手塚治虫や鳥山明の
作品に憧れ、漫画家を目指し
てました。オリジナルの漫画を
描いていたほどで、
今でも、多くの絵に
はあります(へ)



安野 広明

“赤き血のイレブン”の主
人公の「サブマリンシュート」
に憧れ、毎日サッカーのこと
ばかり考え、サッカ
ー選手になるため
に練習していました。



石川 秀樹

私の子供の頃の夢
は、プロの将棋の棋士
になることでした。今でも
プロ棋士に挑戦
したいと思っ
ています。



田原 智延

長嶋茂雄さんにスタジ
ャ员(ソウ)に憧れて、プロ野
球選手になることが夢
でした。巨人
大鵬邸焼きの
時代でした。



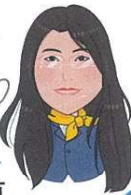
濱崎 俊明

スペースシャトルの
パイロットです。
子供のころ宇宙図鑑を
見て乗っ
てみたい
と思っていました。



中島 大吾

『学校の事務人』ニハ以前
の記憶が思い出せた。確信に
は定かでないが、事務人トニ
とは覚えています。
もしにしてもなぜか
今は不思議です。



佐々木 康恵

さ、かけは覚えていませんが、中学
時代まで、ノートに漫画イラストを
描くのが趣味でした。夢は漫画家
だったのかもしれません。
時は経ち、今では無事
黒歴史となりました。



原 光

パン屋さんです。
少少時代、パンが大好き
でパン屋になれば毎日
食べられると思
い、ただ漠然と思
っていました。



室田 直樹

寝て覚めてバスケットボール
です。夢が才能があるや
りではないですが、その道を極
めたいと思って
いるのではないかと
思っています。



橋本 一輝

エジソンやガリレオの
伝記を読んで「発明家」
になりたい(新しいものをつくりたい)
と思っていましたが、
そういう発想で仕事
に組み組みたいです。



恒松 明宏

ー美容師ー
自分の髪が嫌いで美
容師になつて何とかなりたいと
思っていた。小学校
の発表会を発表
した事を覚えてる。



大賀 利江

保健室の先生
小学生の時にみんなの
ケガを何でも治す姿や
相談しやすい先生に
憧れていました。



増子 枝里子

かけはし

Vo1.54
秋号
2022年10月



経営計画発表会の集合写真です。
講師をつとめていただいた比田井
和孝先生(前列左から3人目)と一緒
に撮影しました(^_^)

10～12月の税務・お知らせ

- ・10月・・・個人住民税の納付
- ・11月・・・所得税第2期予定納税額の納付
- ・12月・・・給与所得の年末調整

お休みカレンダー

2022年 10月							2022年 11月							2022年 12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			1	2	3	4	5					1	2	3
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24
23/30	24/31	25	26	27	28	29	27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31



ビジネスプラン / あんの会計

〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL (0856) 23-6116 FAX (0856) 23-6674
E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp
HP http://annokaikei.com

わたしたちは、たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にします！

こんにちは、ビジネスプランの安野広明です。いつもニュースレター「かけはし」をお読み下さり、ありがとうございます。

去る9月15日に第31回ビジネスプラン特別講演会を開催し、たくさんの皆様にご参加いただきました。今回は会場とオンラインのハイブリッドでの開催だったため、3年ぶりにリアル場でご挨拶ができ、感慨深いものがありました。また、オンライン受講された方の中には、県外のみならず海外からご参加下さった方もいらっしやって、まさに、いままでにない新しい形での講演会でした。ご参加くださった皆様、ありがとうございます！



代表取締役
安野 広明

話は変わりまして、弊社は10月から38期目に突入しました。3日には経営計画発表会を開催し、今期の方針を発表したところです。そこでも話しましたが、これからの時代、お客様にとって「便利な存在」として選ばれるのか、それとも「意味のある存在」として選ばれるのか。どちらの道に進むのかによって、方向性も社運も大きく変わってくるのではないかと思います。どちらが正解という訳ではないのですが、弊社としてはお客様にとって「意味のある存在」になれるよう、これからも社員と一丸になって精進して参ります。それでは、今月号もよろしくお願いします！

『配膳ロボットに驚き、時代の変化に焦った…という話』

数ヶ月前、仕事で東京へ出張し夕食をとっていた時に、驚いた出来事があります。それは、ロボットが料理を運んできたことです。ふと背後に気配を感じたので振り向くと、既に近くにいて、しかも、いきなり喋り出したため「うわっ、びっくりした！」と思わず声をあげてしまいました。店内はスタッフの人数が少なく、人の代わりにロボットが活躍していたのでしょう。そして、5～6年前に日経新聞で見た「ロボットが配膳している近未来の絵」が頭に浮かび、既に実現してるんだな～としみじみ感じました。（なにせ、初体験だったもので・・・）

また同時に、オックスフォード大学のマイケル・オズボーン准教授らが2013年に発表した、「10～20年以内に（アメリカの）労働人口の約47%が機械に代替されるリスクがある」という研究結果を思い出しました。コロナの話題で見えにくくなっていますが、コロナ禍の間も確実に、AI（人工知能）は進化しているはずで。「これからの30年で、9割の人の仕事はなくなる」「AIが進歩するほど、人間はどんどん無能になっていく」といった過激な主張がなされている本も見かけます。とにかく、変化の真ただ中にいると分かりづらいだけで、長い時間軸で世の中を眺めれば、歴史的な変化の渦中にいることだけは間違いありません。その認識を持った上で意識したいのが、「変化率」。他人（他社）とではなく、過去の自分（自社）と比較した時に、どれだけ変化できているか？ということです。コロナ前、1年前、半年前、1ヵ月前の自分（自社）と比べ、できることが増えたり、ご縁が広がったり、経験値が高まったり、知見が深まったりしているかどうか。もしも、実感として変化率ゼロだとすれば、要注意。海水浴場で起こる離岸流の如く、知らぬ間に、望まない方向へと流されてしまうかもしれません・・・。

十数年前までは存在しなかったスマホがすっかり生活の中に溶け込み、1人ひとりがいつでもどこでもインターネットに繋がれるようになった環境変化と同じく、十数年、数十年後に、「あれ？いつの間にか自分のできる仕事が無くなってる（＝全部機械がやってる）！」なんてことにならぬよう、いまの内から変化率を高めていきたいものです。配膳ロボットに驚きつつ、そんなことを感じました。

ビジネスプラン特別講演会

講師として、ベストセラー作家の喜多川泰先生をお招きしました。



セミナー報告

弊社代表の安野が「経営に活かすための経営計画書」というテーマでセミナー講師をつとめました。



日創研島根経営研究会様（松江）



東出雲町商工会様（松江）

本の紹介



『ソバニルヨ』（著）喜多川 泰

今月紹介させていただく書籍は、喜多川泰先生の著書です。物語はある中学校の男の子と、手作りAIロボットとの関わりの中で、少年がご両親・友人と向き合い、窮地に追い込まれる中で、最初は反発していたロボットからの助言に耳を傾け、成長していく姿が描写されています。そしてロボットとの別れを通して、我々に人間としての気持ちの持ち方・教育のあり方を教えてくれる作品です。皆様もぜひ、喜多川ワールドを味わってください。



田原 智延

『価値とは、相手の頭の中に生じるイメージ』



現在のような物価上昇局面において、中小企業は「価格」ではなく「価値」で勝負しなければならないと改めて感じます。ご存知のように、価格は本来、価値に従うものです。したがって、価格を上げる場面においては、提供する価値をより一層高めていくことに尽きると思います。

では、価値とはそもそも何なのでしょう？それは、こちらから発信する情報によって、お客様の頭の中に生じる自社のイメージです。したがって、どのような情報をお客様に届けるのか？発信する情報の工夫改善に手を抜かず継続的に行っているか？といったことが、価値で選ばれるのか価格で選ばれるのかの、分かれ道になると考えています。

ちなみに、ここでいう情報には、会社全体としてのHP・ニュースレター・SNS等はもちろんのこと、個別のお客様との対話、接客、表情、態度などが含まれます。つまり、社内のメンバー1人ひとりが情報発信者であり、お客様の頭の中のブランドイメージを生み出しているのです。そのためにも、社内での情報共有や社員教育が重要になるのは、ご承知の通りです。

ブランドや価値というのは抽象的で目に見えないため、どうしても疎かになりがちです。とはいえ、これから数年は続くと言われている物価上昇局面においては、これまで以上に価値の発信にアクセルを踏み込む必要があると考えています。

『「考える」をシンプル化しすぎぬように』



世の中は「シンプルで分かりやすい」を求める方向へ向かっている、そんな感覚があります。「断捨離」や「ミニマリスト」などの流行が、その一例でしょう。コロナ禍においては、1人の時間が増えたことで、部屋の中も頭の中もシンプルに整理された人が多いのかもしれませんが、私自身、できるだけ原理原則に立ち戻りながら、シンプルに物事を判断するよう心がけているつもりです。

ただ、少し懸念しているのが、「考える」という行為自体を省略化（シンプル化？）する傾向にあるのではないか？ということ。ご承知の通り、昔に比べて、検索サイトや動画サイトは格段に充実しました。いまでは、知りたい内容をYoutubeで検索すれば、たいていのことは、誰かがシンプルに分かりやすく教えてくれます。私が二十数年前、公認会計士の受験をしていた頃には、考えられない環境です。当時、勉強していて分からないところを、いつでも分かりやすく教えてもらえる、そんなツールがあるといいのにな～と夢見ていた世界が、ほぼ実現していますので。

とはいえ、便利になった反面、「考える」こと自体を面倒臭がり、すぐに答えを求めるようになった感も否めません。分からないことにぶつかると、「とりあえずYoutubeで検索してみよう！」みたいな・・・確かに効率的ではあるのですが、当時の自分を振り返ると、先生に質問するために自分なりに頭の中を整理したり、参考書を開いて調べたりするプロセスが、粘り強く考える思考体力や、深く掘り下げるための思考筋を鍛えるのに役立った、そんな気がしています。

もちろんこのことは、勉強のみならず、読書にしても仕事にしても同じです。とりわけ仕事をする上では、シンプルで分かりやすいことよりも、複雑で分かりにくいことの方が多く訳でして・・・その最たるものが、人間の感情でしょう。自分の感情ですらコントロールが難しいのに、相手の感情まで理解するなんていうのは、至難の業。そこに対して「あの人は〇〇な人だ」とレッテルを貼るのは簡単ですが、実際には、そんな単純なものではありません。また、そうやって無理矢理シンプル化している限り、関係性の質は改善されず、お互いの成長にもつながらないと思います。

したがって「シンプルに分かりやすく」もよいのですが、それに慣れすぎて、複雑で分かりにくいことから目を背けることのないよう、そして、「考える」という行為を省略せぬよう、気を付けたいものです。

『時間に支配されていませんか？』



「仕事の量は、完成のために与えられた時間いっぱい膨張する」

これは、英国の歴史学者、シリス・ノースコート・パーキンソン氏が提唱した、「パーキンソンの法則」です。例えば、締切までに5日与えられたら、もしもそれが3日で終わることのできる仕事であったとしても、きっちりと5日後になる・・・そんな経験は、誰にでもありますよね。

ではなぜ、与えられた時間いっぱい仕事膨らむのか？それは、自分の能力ではなく、時間に支配されていることが要因です。

つまり、誰かが設定した5日という時間（＝基準）に合わせて生きているということ。おそらく、その中には、無駄な時間や浪費の時間が山ほどあるのだと思います。

もしもこれが、自らの能力をフルに発揮して仕事に取り組んだとすれば、どうでしょうか？効率化によって時間を捻出することができ、そこで生み出した時間に新たな仕事をこなし、結果として生産性も高まるはず。おそらく、世の中の成功者と呼ばれる方々は、有限の時間を無駄にしない、決して時間に支配されない仕事をなさっているのでしょう。

少し話は変わりますが、仕事によって得られるものは、お金だけではなく、知識、能力、人脈、経験、成長、信用など、数多くあります。

どうせ同じ時間を働くのなら、できるだけ多くのものが手に入った方が、お得ですね。そしてそのためにも、時間に支配された仕事ではなく、主体的・積極的に多くを手に入れる、そんな仕事の進め方を実践したいものです。

『悩んだ時は、いったん引いて見る』



自分の感情が何かに囚われている時というのは、主観に囚われている時だと思います。そしてそれが、喜怒哀楽のうち、喜や楽の感情の場合には思う存分に噛みしめればよいのですが、怒や哀の場合、あまり囚われすぎるとやがて自らの心を蝕む可能性があるでしょう。かくいう私自身、人間の器が小さいため、放っておくと主観に囚われ、ネガティブマインドから抜け出せないことも・・・。

したがって、そんな時に意識したいのが、（現象を）いったん引いて見るという営みです。視点を「虫の目」から「鳥の目」に引き上げる、そんなイメージでしょうか。そうすると、自分自身を客観視でき、冷静さを取り戻せます。結果として、感情に囚われたままの視野の狭い判断ではなく、全体最適を図った意思決定を行うことができるはずです。

そしてその際、主観から客観、「虫の目」から「鳥の目」に切り替えるためのキーワードを予め用意しておくとういかもしれません。ちなみに私の場合、「そもそも」が切り替えスイッチとなっています。

「そもそも、なぜそこまで悩んでるんだっけ？」とか「そもそも、自分がいま悩んでいることは（もっと厳しい環境にある）他者の悩みと比べた時に、どれほどのものなのだろうか？」という感じで活用します。

このように、自らの感情を抑制（＝客観視）し、過度に囚われない（＝沈まない）ためのキーワードがあるかどうかによって、長い目で見ると、まったく違う人生になるのではないのでしょうか。何かのご参考までに。

<安野からのおすすめコーナー>

*このコーナーでは、私が独断と偏見により選んだ、おすすめの本や映画等を紹介いたします。ご参考にしていただくと幸いです。

○小説 『よくがんばりました。』（喜多川泰 著）

9月の弊社特別講演会にて講師をおつとめいただいた、国内累計100万部超えのベストセラー作家・喜多川泰先生による最新刊です。だんじり祭りを舞台に、「決して交わることのなかった父と息子に訪れる奇跡」が描かれています。喜多川先生の作品はどれもストーリーに引き込まれ、かつ、色々と考えさせられるものばかりですが、約3年半ぶりの新作も期待を裏切らない素晴らしい内容です。「可哀想な私」の殻に閉じこもって生きるのではなく、他の誰でもない「自分の人生を生きる」ことの意味について深く考えさせられました。ぜひ、ご一読下さい。